

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	生野区
学校名	大池小学校
学校長名	小椋健司

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に关心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大池小学校では、第6学年 56名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

<国語>

- 平均正答率は、全国平均より4.8ポイント下回っている。
- 全国平均と比較すると、観点別では「話すこと・聞くこと」が、5.2ポイント、「書くこと」が5.9ポイント、「読むこと」が7.5ポイント下回っている。

<算数>

- 平均正答率は、全国平均より8ポイント下回っている。
- 全国平均と比較すると、観点別では「数と計算」が、7.8ポイント、「変化と関係」が5.4ポイント下回っている。

<理科>

- 平均正答率は、全国平均より7.1ポイント下回っている。
- 全国平均と比較すると、観点別では「エネルギー」が6.5ポイント、「生命」が6ポイント下回っている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

『情報の扱い方に関する事項』の問題では、全国平均より1.7ポイント上回っている。しかしながら文章全体の構成を捉えて、要旨を把握することや目的に応じて必要な情報を見つけることにおいて全国の平均正答率と開きがあり、課題がみられる。

〔算数〕

異分母分数の加法に関する問題では、全国平均より2.3ポイント上回っている。

『図形』や『測定』の問題では、全国平均正答率と開きがある。数量の関係を式に表すことに関する学習の定着が不十分であった。

〔理科〕

電磁石に関する問題では、全国平均より1.2ポイント下回っているが、ほぼ全国平均の水準である。

水の温まり方によって水の状態が変化する問題では、全国平均正答率と開きがある。水の温度と状態や体積の関係に関する学習の定着が不十分であった。

※国語科、算数科の学習においては、「学びサポーター」による個別支援や放課後学習により、学力低位層児童の学習支援を行うとともに、習熟度別学習により基礎・基本的学力の定着に努めている。

質問調査より

- 『自分にはよいところがあると思いますか』の項目に肯定的な回答をした児童の割合は、87.7%で全国平均より0.6%高い。
- 『先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか』の項目に肯定的な回答をした児童の割合は、96.5%で全国平均より4.3%高い。
- 『学校に行くのは楽しいと思いますか』の項目に肯定的な回答をした児童の割合は、87.7%で、全国平均より1.2%高い。
- 『人が困っているときは、進んで助けていますか』の項目に肯定的な回答をした児童の割合は98.3%で、全国平均より4.6%高い。
- 『いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか』の項目に肯定的な回答をした児童の割合は、96.5%で、全国平均より0.7%低い。

今後の取組(アクションプラン)

○国語科では、書いてある内容や文の意味を理解しながら文の中で正しく使い、目的や意図に応じた文章を書くことができるよう「書くこと」に重点を置いた授業の充実を図る。また、他教科との関連を図り、「文章にまとめる」「言葉で説明する」「できる限り漢字を使って表現する」等、国語科で学習したことを活用する機会を意図的に設定する。また、話し合い活動の充実を図るために、ペアトークやグループでの話し合い活動の場面を、学校生活の様々な場面で取り入れるよう工夫する。

○算数科においては、基礎的・基本的事項の習得に重点を置いた授業展開を図り、児童の理解度に応じた「ヒントカード」を用意するようにしている。また、習熟度別少人数学習を通して、数学的な考え方や数量や図形についての知識・理解・技能を確実に定着させたり、活用する力を育てたりすることに取り組む。

○理科においては、引き続き実験や観察など体験的な活動を基本しながらも、科学的な探求や問題発見・解決を通して見出した関係性や規則性を、日常の生活と結びつけて考えることができる授業を進める。

【 全体の概要 】

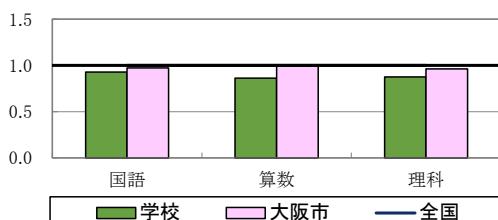
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	62	50	50
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

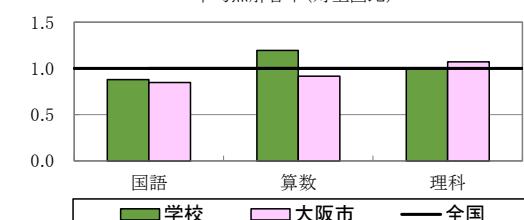
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	2.9	4.3	2.8
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



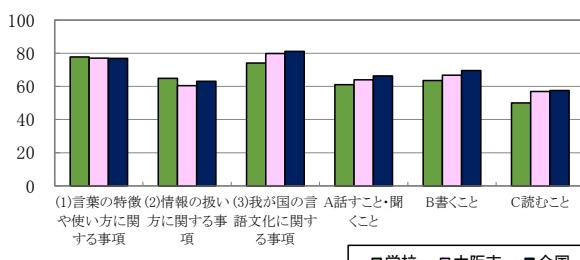
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	77.8	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	64.8	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	74.1	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	61.1	64.0	66.3
B 書くこと	3	63.6	66.7	69.5
C 読むこと	4	50.0	56.9	57.5

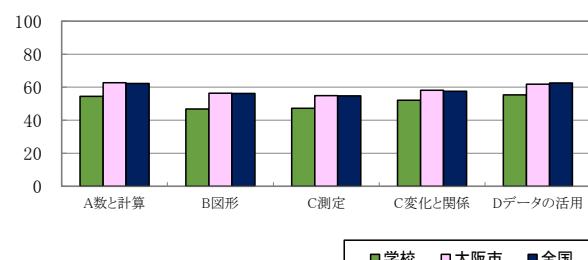
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	54.5	62.7	62.3
B 図形	4	46.8	56.4	56.2
C 測定	2	47.3	54.9	54.8
C 変化と関係	3	52.1	58.2	57.5
D データの活用	5	55.3	61.9	62.6

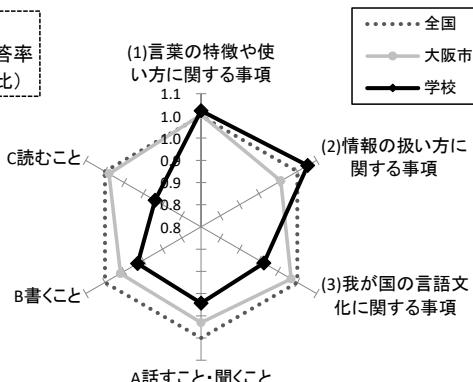
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



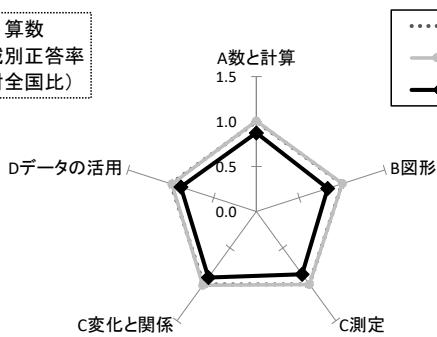
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

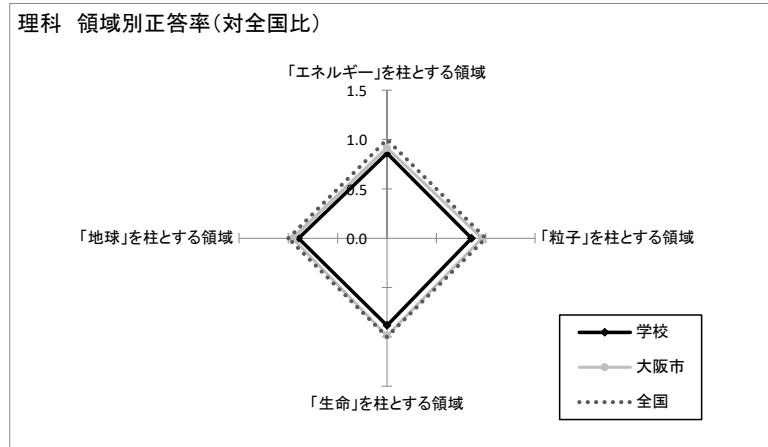
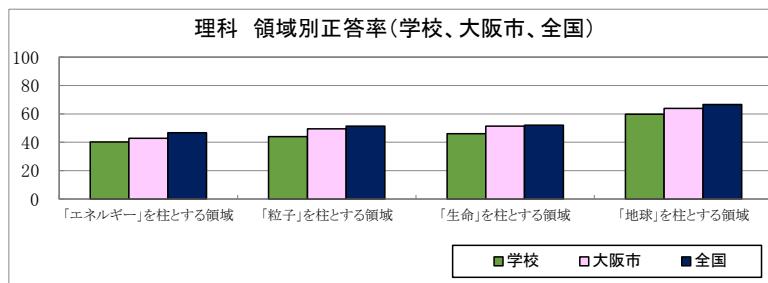


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区分 A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	40.2	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	44.0	49.5	51.4
B 区分 B 区 分	「生命」を 柱とする領域	4	46.0	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	59.8	63.8	66.7



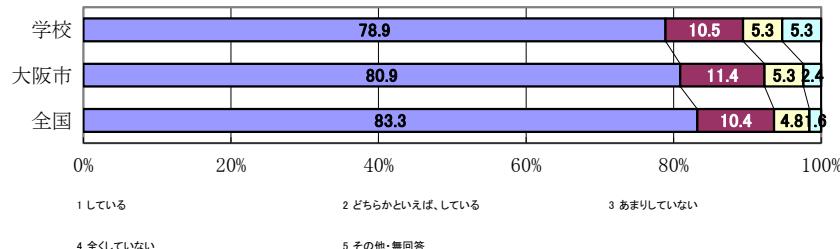
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

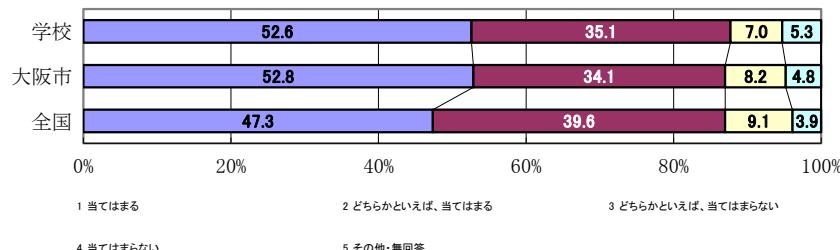
1

朝食を毎日食べていますか



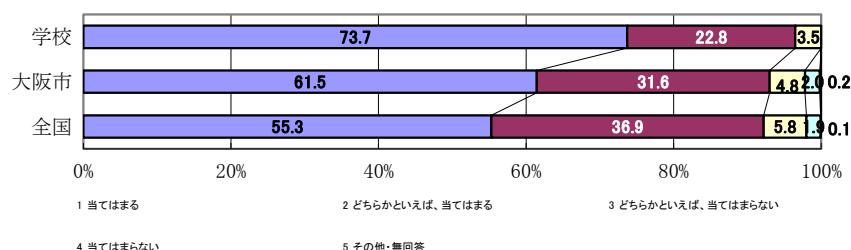
5

自分には、よいところがあると思いますか



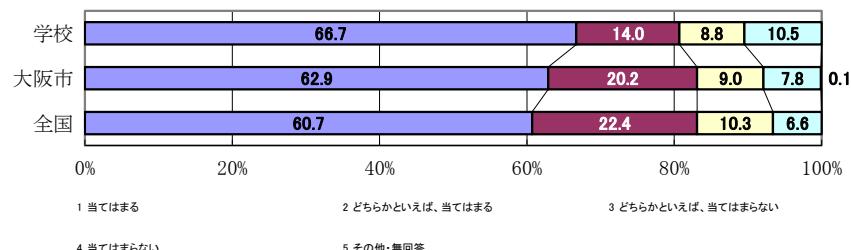
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



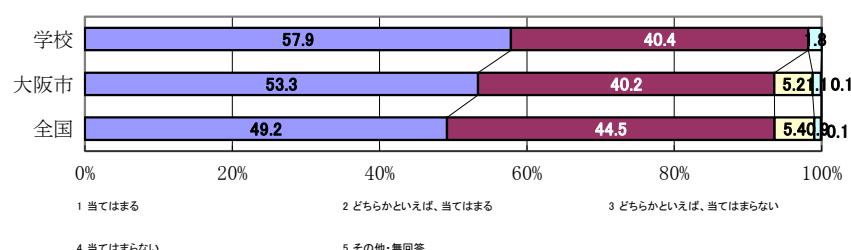
7

将来の夢や目標を持っていますか



8

人が困っているときは、進んで助けていますか



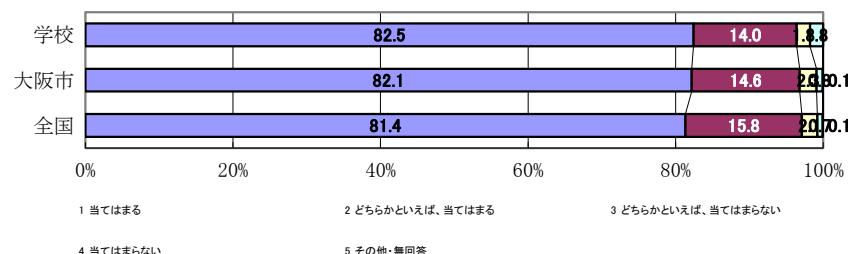
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

9

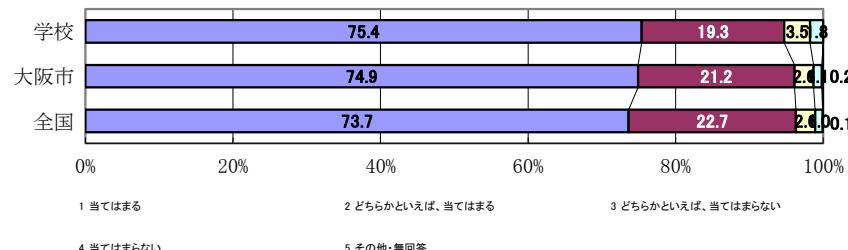
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 その他・無回答

11

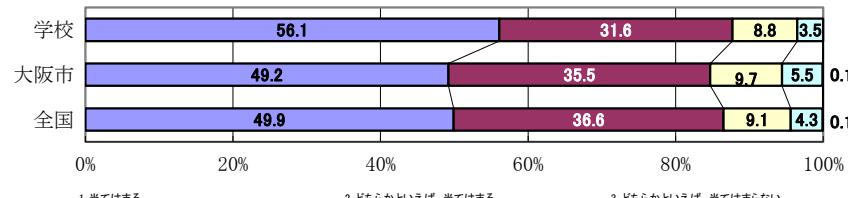
人の役に立つ人間になりたいと思いますか



1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 その他・無回答

12

学校に行くのは楽しいと思いますか



1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる 3 どちらかといえば、当てはまらない
4 当てはまらない 5 その他・無回答

学校

大阪市

全国

0% 20% 40% 60% 80% 100%

学校

大阪市

全国

0% 20% 40% 60% 80% 100%

学校質問より

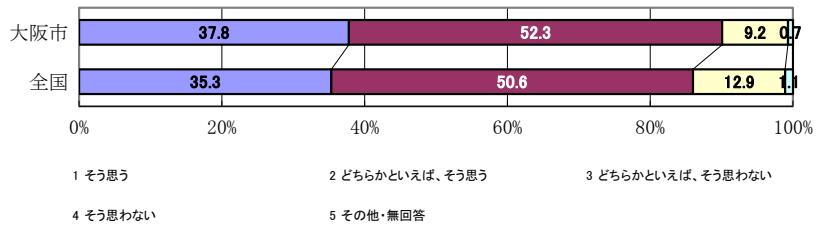
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ちていると思いますか

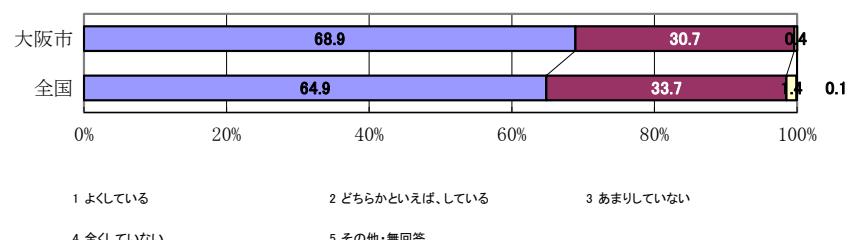
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

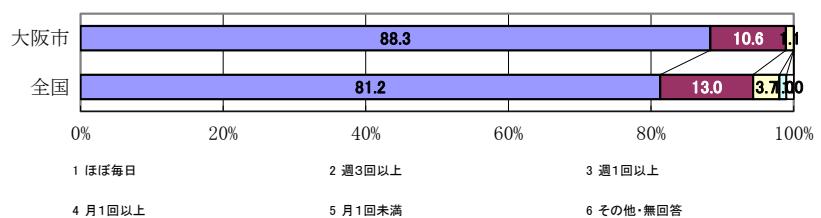
学校 「どちらかといえば、している」を選択



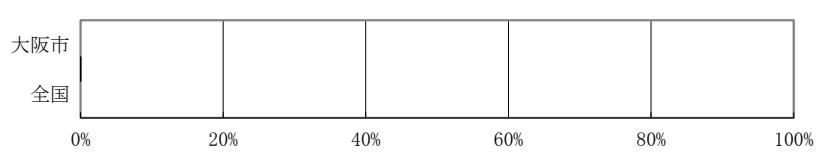
55

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



学校 「」を選択



学校 「」を選択

